622

授業科目名	**観光文化論**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。（全14回）				

開放科目の指示：「可」

授業概要

観光の現場で出会う文化事象のことを、一般的に「観光文化」と呼びます。観光文化は、観光者の存在によって創り出された文化です。観光の現場でどのような文化が創られてきたのでしょうか。また従来の文化が観光の対象となることで、どのような現象が起こっているでしょうか。本講義では、このような問題意識のもと、観光文化の過去・現在・未来について一緒に考えていきたいと思います。そこから観光とは何か、文化とは何か、という奥深い問題を自分なりに考えてみましょう。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光文化に関する知識	様々な事例を通じて、観光と文化に関する教養を身に付けることができる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		得た知識から観光の将来について検討することができる。
2. DP7.完遂		指定の形式に沿った資料を完成させることができる。
3. DP8.意思疎通		得られた情報をわかりやすく説明することができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への貢献度	10 %	： 授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。
小テスト	30 %	： 授業内で２回実施し、各回15点で評価します。
個人発表	30 %	： 個人でプレゼン資料を作成し発表します。またクラスメイトとお互いに評価し合います。独自のルーブリックに基づき評価します。
最終レポート	30 %	： 個人発表した内容をレポートとしてまとめます。独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大橋昭一・橋本和也・遠藤英樹・神田孝治編『観光学ガイドブック』ナカニシヤ出版、2014年
その他、必要に応じて授業内で指示します。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス　観光文化と文化観光** 観光と文化の概念、文化観光と観光文化の関係を学び、授業のテーマを理解します。	観光文化の事例を調べてみよう	4時間
第2回	**世界の観光文化** 古代ギリシャ・古代ローマの富裕層の生活から現代に通じる観光文化を見出すことができます。欧州を中心に、古代から近代に至る観光文化の歴史について学びます。	古代ローマの遺跡を調べてみよう	4時間
第3回	**宗教観光の起源と展開** 日本では、熊野詣や伊勢参詣、四国遍路など、古くから信仰の旅を盛んに行っています。宗教観光の長い歴史を紐解きながら、近年の「テラハク」に至るまで、宗教と観光について考えます。	江戸時代の伊勢参詣について調べてみよう	4時間
第4回	**温泉文化と観光** 近年、訪日外国人旅行者も温泉への関心が高まっています。温泉の歴史、機能や魅力について学び、温泉開発とともに進展した温泉地の観光地化について考えます。	日本の温泉地が抱える共通課題を調べてみよう	4時間
第5回	**伝統行事と観光/第1回小テスト** 日本では四季折々の伝統行事があり、祇園祭をはじめとして、各地で伝統的な祭りが行われ、貴重な観光対象となっています。ここでは「岸和田だんじり祭」を事例に、祭りの観光化について考えます。	身近に行われている伝統的な祭りを調べてみよう	4時間
第6回	**博覧会と観光** 近代観光の祖と言われるトーマス・クックは、世界初のロンドン万博で事業を拡大し、日本においても近代以降、多数の博覧会が開催されています。世界の博覧会が創り出した観光文化について学びます。	大阪市内で開催された博覧会について調べてみよう	4時間
第7回	**テーマパークと観光** テーマパークは、特定のテーマの下で非日常の世界を味わう観光文化の代表です。日本のテーマパーク産業の全体像を掴み、東京ディズニーリゾートとユニバーサル・スタジオ・ジャパンを事例に、それぞれの人気の理由を考えます。	TDRとUSJの魅力について考えてみよう	4時間
第8回	**博物館と観光** 日本では、法律上、動物園や水族館も博物館の種類です。文化施設全般の社会的な役割、博物館の目的や事業内容を確認した上で、人気の観光地となった「旭山動物園」と「美ら海水族館」を事例に、その成功要因について考えます。	2022年に入場者数の多い博物館・美術館を調べてみよう	4時間
第9回	**文化遺産と観光/第2回小テスト** 歴史的な町並みや美しい景観は重要な観光資源です。近年、文化庁では「日本遺産」を認定するなど、文化財の保護から活用への動きが高まっています。文化財の観光活用への施策について学びます。	関心を持った「日本遺産」について調べてみよう	4時間
第10回	**芸術祭と観光** ヴィネツィア・ビエンナーレにはじまる芸術祭は、近年、日本においても全国各地で開催され、観光資源としても注目されています。瀬戸内国際芸術祭を事例に、観光とアートの望ましい関係について考えます。	日本各地で行われている芸術祭について調べてみよう	4時間
第11回	**自然と観光** エコツーリズムやグリーンツーリズムのほか、アドベンチャーツーリズムや、近年注目されているサイクルツーリズムなど、地域の自然を活用する観光文化の動向について学びます。	自然ツーリズムの事例を調べてみよう	4時間
第12回	**観光文化資源調査Ⅰ（プレゼンテーション）** 各自、作成した観光文化資源調査資料をもとにプレゼンテーションを行います。報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換します。	観光文化資源調査資料を作成しよう	4時間
第13回	**観光文化資源調査Ⅱ（プレゼンテーション）** 前回に引き続き、プレゼンテーションを行い、報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換します。	観光文化資源調査資料を作成しよう	4時間

第14回	**まとめにかえて** 前回に引き続き、プレゼンテーションを行い、報告された課題と新たな活用案について、全員で意見交換した後、アフターコロナ時代の観光文化のありかたについて議論します。	観光による地域文化の継承について考えてみよう	4時間

622

授業科目名	**航空予約中級**				
担当教員名	**玉田 瑠美子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	航空会社関連で予約・案内業務を担当。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

1年生前期「航空予約基礎」、後期「航空予約初級」の発展内容になります。発展内容として、予約の分割変更・修正を学びます。運賃の基礎についても学習し、運賃表の見方、予約記録からの運賃計算方法を身に付けます。今後IT技術を活用した旅行予約のニーズは高まっていくことは必至であり、業界トップクラスのGDSであるアマデウス操作スキルと航空予約基礎知識を習得することにより、旅行業界を目指す方々が現場で即戦力として活躍できる技能を身に付けます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	国際線旅客運賃に関する基礎知識を身に付ける。	国際予約に関する発展内容を習得し、アマデウスシステム検定「Air Expert」レベルの技能習得を目標とする。
汎用的な力		
1. DP6.行動・実践		航空業界、旅行業界で即戦力として活躍できるレベルのアマデウス操作と応対スキルを身に付ける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし。成績評価を行わない。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
PNR(予約記録)作成小テスト	30 %	: 1.アマデウスシステム検定(specialist)レベルのPNR作成ができるかを評価する。2.旅程の変更操作ができるかを評価する。3.お客様情報の変更操作ができるかを評価する。（各10点×3回）
フォームテスト	20 %	: googleフォームを使用して、正しく入力出てきているを評価する。（各10点×２回）
実技テスト	30 %	: 国際線予約予約・運賃基礎を習得し、アマデウスシステム検定「Air Expert」レベルの技能習得できているかを評価する。
受講態度	10 %	: 練習問題に対する積極的な取り組み、質問に対する適切な応対などを総合的に評価する。
期末レポート	10 %	: 課題の条件を満たし、授業で得た知識を的確に表現できているかを評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

「アマデウスユーザーガイド　運賃・発券」と「クイックガイド」を使用

履修上の注意・備考・メッセージ

1年生前期「航空予約基礎」後期「航空予約初級」受講者のみ受講可能。
本科目は２単位の科目であるため。平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修科目」に取り組むことに加え、その回の授業内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**授業方針及びPNR(予約記録)作成の復習①** 授業の進め方、目標、評価について確認。テキスト、練習ドリルを使用し、アマデウスシステム検定「Specialist」の内容を復習。	テキスト、練習ドリルを使用して航空予約の基礎知識を復習する。	4時間
第２回	**PNR(予約記録)作成の復習②** 家族や複数のPNRで且旅程が複雑なものを復習し、スムーズに作成できるようにする。	複雑なPNR(予約記録)作成の流れを復習する。	4時間
第３回	**旅程の取消・変更** 旅程の取消・変更方法を学ぶ。	テキスト、練習ドリルを使用して旅程の取消・変更の流れを復習する。	4時間
第４回	**PNR（予約記録）の抽出** PNRを抽出する際に必要な入力方法、各種コードを学ぶ。	PNRの抽出がスムーズにできるようにする。	4時間
第５回	**SSR (specail service request)** ミールリクエスト、座席指定、メールリクエストについて復習する。SSRの取消・変更方法を学びPNRをしっかり読み取れるようにする。	PNRの読み取りができるようにする。	4時間
第６回	**国際線旅客運賃①** IATA世界区分、運賃の基本的種類の考え方を学ぶ。	IATA世界区分を覚える。	4時間
第７回	**国際線旅客運賃②** タリフ用語を学びタリフの基礎について学ぶ。	タリフとは何かを説明できるようにする。	4時間
第８回	**国際線旅客運賃③** 通貨換算レートについて学ぶ。	通貨換算レートについて説明できるようにする。	4時間
第9回	**国際線旅客運賃④** 運賃表を表示する方法とオプション、そのルールの見方を学ぶ。	基本の運賃について説明できるようにする。	4時間
第10回	**PNR(予約記録）からの運賃計算方法①** PNRを抽出し、運賃計算する方法を学ぶ。	最安値運賃が答えらえるようにする。	4時間
第１１回	**Best Pricer機能について** 複雑なPNRをスムーズに作成し、Best Pricer機能を使用してお客様が求める最安値を提案できるようにする。	Best Pricerの表示結果を読み取れるようにする。	4時間
第１２回	**国際線旅客運賃基礎復習** IATA世界区分・運賃種類・タリフなど練習問題を通して復習し、国際線運賃への理解を深める。	練習問題を見直し、基本運賃について説明できるようにする。	4時間
第１３回	**総合練習問題** 国際線運賃の知識を理解し、練習問題に記載された条件を理解した上でPNR(予約記録）をスムーズ作成できるようにする。手配した予約に対して説明できるようにする。	国際線運賃全般について復習する。	4時間
第１４回	**国際線予約応用の理解と国際線旅客運賃基礎のまとめと実技テスト** アマデウスシステム検定「Air Expert」と同じレベルの実技テストを行い、理解度を確認するとともに、本授業全般の振り返りを行います。	全１４回の授業を振り返り、期末レポート作成に備える。	4時間

622

授業科目名	**文書管理**				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	企業における文書管理、文書作成をする。				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、ビジネス現場における文書作成を学びます。ビジネス文書は事務的な職務に携わる際に必ず求められル能力です。ビジネス文書の能力は、ビジネス的な文章、文書用語、様式、関連知識など知識技能をもつことです。現在では、書籍離れ、語彙力の低下などから企業内では問題になっています。文書はコミュニケーションの一方の重要な手段であるビジネス文書について一定の型や特有の言葉づかいを会得することにより、ビジネスの場に対応できる正確、迅速、丁寧な文書が書けることを目標とします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	ビジネスで使われる文書作成能力	就職先への御礼状からカバーレターが即書ける。
汎用的な力		
1. DP5.計画・立案力		目的によってのビジネス文書が書ける
2. DP6.行動・実践		文書を書くことへの抵抗がなくなり、コミュニケーションツールとして活用できるようになる
3. DP8.意思疎通		ビジネス文書をとおして、御礼状や詫び状など相手に想いが伝わる社交文書がかける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として、毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-]とする。
１０分以上の遅刻は認めない。２回遅刻で１回欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題に関する理解度テストを提出	20 %	： 授業内でビジネス文書を学習し、理解度テストをする。 理解度テストの成績は評価対象とはせず、回答し提出することを評価とする。
期末試験	80 %	： ビジネス文書を試験時間内で作成し、解答する。 検定試験等における一定基準において評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

ビジネス文書の基礎技術　／石黒　圭【編集】ひつじ書房

履修上の注意・備考・メッセージ

授業で解答解説した文書については、次回の授業までに作成できるように復習をしておくこと。
授業内ではパソコン入力での文書作成ではなく、全て手書きで行うため、文字や書面のバランスも考えることが必要である。文字を書くことにより手書きの御礼状なども作成できる能力を身につけることができる。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　事業の前後など

場所：　授業教室

備考・注意事項：　事前に連絡がとりたいときは、kometani.n@ark.ocn.ne.jpに連絡すること。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション** 授業の推進要領及び授業目的と授業内で何を習得することが目標であるかを説明する。 ビジネス文書が果たす重要な役割、文書の機能など、文書の必要性、文書の基礎知識として文書の成り立ちについても学習する。	文例を見ながら、手書きでA4用紙にバランスを考え清書する	4時間
第2回	**ビジネス文書　「文章の構成と文体の統一」** 表記技能では、文字は正しく、丁寧に書くことから始める。実際のビジネス現場では御礼状やお手紙といった社交文書でない限り、手書きはしないが、この授業はパソコンを使用せず、全て手書きでビジネス文書を学習する。文書を書くにおいて必要な文字、漢字等、やさしい実用文に使われる常用漢字と固有名詞やビジネス用語に使われる漢字を書くことができる。 文書の基礎知識として、文書構成と文体の統一についても学習する。	ビジネス文書で使用する漢字が書けるように課題をする	4時間
第3回	**ビジネス文書　「ビジネス文書の作成　基本の型を覚える」** 表記技能では、現代仮名遣いの用い方、送り仮名の付け方、数字の書き表し方、句読点の付け方を学習する。前期に学習した内容と重なり復習となる。 また、話しことばと口語体の書きことばを更に学習する。 実際によく使われるビジネス現場での文書の種類、特徴、作成上の注意点などを学習する。 何度も、ビジネス文書の定型文を準えることで、型を覚える。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第4回	**ビジネス文書　「ビジネス文書の作成練習　通知・お知らせ」** 表記技能では、日常、よく目に触れる一般用語を学習する。同音異義語、異字同訓語が使い分け、慣用の手紙用語を学習する。また、漢語表現を和語表現にし、分かりやすい表現で書けるようにを学習する。 社外文書の書式を学び、通知文が書けるようになる。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第5回	**ビジネス文書　「ビジネス文書の作成練習　案内状」** よじれのない文が書けるように学習する。類義語を使い分け、正しく伝えるための基本文書を学習する。 ビジネス現場で即作成出来るようになることを目標として、よく使用される文書を学習する。 案内状の基本の型と表現方法を学習する。 型を基に、何度も手書きをすることで記憶し、言葉を覚えていく。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第6回	**ビジネス文書　「ビジネス文書の作成練習　依頼状」** 依頼状の特徴は、相手の好意に訴えることが重要なポイントである。物事をお願いする文書であるため、心からの誠意を表現する文書を書けるように様々な場面設定で依頼状を書き、練習する。 また、文書を書く中で、人をさす言葉、敬称を学習する。 敬語が文章内で正しく使え、丁寧な言葉づかい、言い回し、ビジネス文書での言葉づかい、語彙を学習する。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第7回	**ビジネス文書　商業文書①「見積書・請求書の作成」** 商業文書を学ぶ。 見積書から始まり、注文、納品、請求書、領収書と一連の商業で使用される文書について学習する。見積書、請求書、領収書それぞれの文書で必要な要件が分かり、作成できるようになる。	授業で学習したことを元に図表を書く練習問題を解く	4時間
第8回	**ビジネス文書　商業文書②「注文書の作成」** 商業文書を学ぶ。 注文書をビジネス文書形式で記述書で書くことができるよう学習する。	授業で学習したことを元に練習問題を解く	4時間
第9回	**ビジネス文書　社交文書①「祝い文・結婚式の招待状・祝賀状」** ビジネス文書の中でも、社交として使用する文書を学習する。 社交文書で使われる手紙文の言葉例を数回に分けて学習する。 結婚式の招待状をはじめ、社長就任の挨拶、それに対する祝賀状の文例を基に、書き方を学ぶ。 祝い文では、特に気をつけなければならない「忌み言葉」についても学習し、形式にとらわれすぎず、社交辞令に終わることのないような誠意を込めた文書が書けるように学びを進める。 縦書きの書き方も学習する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第10回	**ビジネス文書　社交文書②「お礼状」**	例文から社内文書を作成練習をする	4時間

	社外文書で使用する語彙、敬語を再確認すると共に、ビジネス文書で使用される言葉を覚える。 お礼状は、社会人になって直ぐに使用する文書とも言える。お礼状を書くときの注意点や基本的書き方を学習する。 前授業に続いて、手紙を書く上でのエチケット（便箋の使い方、忌み言葉等の使い方）やしきたりを学習する。 封筒と扱い方についても学習する。		
第11回	**ビジネス文書　社交文書②「見舞状」** 災害の多い日本では、お見舞いを書くことも増える。火災、風水害、地震などの災害に見舞われた方へと病気に対する見舞いもある。見舞うべき事柄に応じて、突発的に起こるものであり、知った時点で直ぐに書けるように見舞状を書く際の注意点や書き方を学習をする。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第12回	**ビジネス文書　社交文書③「断り状・謝罪文」** ビジネス上で、相手の申し入れに対して拒否をする文書である。出し辛いものだが、できるだけ早く出すために、書き方を知ることで抵抗が無くなる。断りの理由や誤解を招かないように、後の取引に影響を及ぼさない配慮ある文書を学習する。	例文から社内文書を作成練習をする	4時間
第13回	**ビジネス文書　社内文書①　基本的書き方「通達文・指示文」** 社外文書（お断り文）が書ける。 就活のうえでも、お断りの仕方に通じるところがあり、配慮ある文書が書けるようになる。	例文から社外文書である御礼状を作成する	4時間
第14回	**ビジネス文書　社内文書②「報告書」の書き方・封筒の書き方** 仕事をするようになると、社内会議やセミナー参加などを上司に報告をする際、口頭とは別に報告書を作成する。報告書の書き方の基本と注意点を学習する。 封筒の書き方も学習する。	例文から正しい文書に校正添削指導の練習をする	4時間

622

授業科目名	**観光バリアフリー**				
担当教員名	**西 雅恵**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社勤務時は、カウンター業務、海外団体・海外パッケージ旅行、海外業務渡航、国際航空券発券等の幅広い業務を担当。また、専門学校での非常勤講師として授業を担当。現在は公益財団法人日本ケフィット共育機構に在籍し、講座の運営等をはじめ、サービス介助士講座等の資格講座・セミナーなどを担当。				

開放科目の指示：「可」

授業概要

ビジネス現場や日常生活において、高齢な方や障害のある方など多様な方に対するコミュニケーション能力を高めることを目的とします。多様な方の特性を知り、理解を深めることで「おもてなしの心」と「正しい介助技術」を身につけ、安心いただける対応ができる人材となるための基礎知識の習得を目指します。
観光業界や交通業界・流通業界など多くの企業が取得を推進している資格であるサービス介助士資格のテキストを授業で使用するため、希望者はステップアップして資格取得を目指すことも可能です。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人としての接遇を身につけ、お手伝いを必要としている方への介助方法を身につける。	グループワークや実技練習で得た知識と技術を身につける。
2. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	高齢な方や障害のある方へのお手伝い方法を校内の器材で練習し、安全で安心していただける技術を習得し、日常生活で発揮できるようにする。	車いす使用者への介助、視覚障害者への声かけや手引き技術の習得、聴覚障害者とのさまざまなコミュニケーション方法の習得など。

汎用的な力

1. DP6.行動・実践	高齢者や障害者の生活の不便さを知り、全ての人が平等にサービスを受けることができるように、生活の環境を整えサポートができるための、知識と技術を養う。
2. DP8.意思疎通	高齢者や障害者の特性を理解し、あらゆる人とのコミニュケーション技術を学び、身につけ、相手が求めるサポートが実践できるコミュニケーション力をつける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

授業には、指定のテキストを必ず持参の事。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
テスト	50 %	： 各項目での理解度、最終的な総合理解度を筆記試験を行い、独自のルーブリックに基づき評価する。
実技テスト2回	30 %	： 車いす操作・視覚障害者の誘導方法である手引きの実技テストを各15%、独自のルーブリックにより評価する。
レポート提出		： 課題に対して考えまとめる。独自のルーブリックにより評価する。

10　%

授業態度　：　授業内での積極性及び取組状況について、独自のルーブリックにより評価する。

10　%

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
公益財団法人日本ケアフィット共育機構	・サービス介助士・准サービス介助士テキスト	・公益財団法人日本ケアフィット共育機構	・2023　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　授業の前後

場所：　授業の教室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**サービス介助士の学びと観光業界** ・授業カリキュラムの説明 ・サービス介助士とは ・多様な社会を考える ・共生社会の実現をめざして ・SDGｓを考える	テキストP１からP１７の復習および予習	4時間
第2回	**ホスピタリティ・マインド** ・接遇の捉え方 ・ホスピタリティ	テキストP２４からP２９の復習および予習	4時間
第3回	**ノーマライゼーションと障害の社会モデルという考え方** ・ノーマライゼーション ・障害の捉え方 ・障害者差別解消法	テキストP３２からP４４およびP２３１から２３２の復習および予習	4時間
第4回	**コミュニケーション１（高齢者への接遇）** ・高齢者人口の現状と推移 ・高齢者の加齢による身体的特徴 ・高齢者への接遇	テキストP４６からP９２の復習および予習	4時間
第5回	**ジェロントロジー** ・自分の人生を考える	テキストP２０からP２１の復習および予習	4時間
第6回	**コミュニケーション２（車いす使用者①への接遇）** ・車いす使用者の障壁を考える ・車いすの種類、車いすの各部分の名称 ・車いす操作の注意点	テキストP９４からP１１５の復習および予習	4時間
第7回	**コミュニケーション３（車いす使用者②への接遇）** ・車いす操作の実習 ・車いす使用者とのコミュニケーション方法を学ぶ	テキストP９４からP１１５の復習および予習	4時間
第8回	**コミュニケーション４（聴覚障害者への接遇）** ・聴覚障害とは ・聴覚障害者の障壁を考える ・聴覚障害者とのコミュニケーションのとり方	テキストP１１６からP１３６の復習および予習	4時間
第9回	**コミュニケーション５（視覚障害者①への接遇）** ・視覚障害とは ・視覚障害者の障壁を考える	テキストP１３７からP１５３の復習および予習	4時間
第10回	**コミュニケーション６（視覚障害者②への接遇）** ・視覚障害者とのコミュニケーションのとり方 ・手引きの際に注意するポイント ・手引きの実習	テキストP１５４からP１７１の復習および予習	4時間
第11回	**コミュニケーション７（知的障害者・発達障害者・精神障害者・内部障害者への接遇）** ・知的障害者・発達障害者・精神障害者の概要 ・困りごと・コミュニケーションのとり方 ・内部障害の種類 ・内部障害のある方の特徴と配慮	テキストP１７２からP１９４を復習および予習	4時間
第12回	**障害者の自立支援** ・身体障害者補助犬法を知る ・身体障害者補助犬とは ・DVD視聴 ・バリアフリーとユニバーサルデザイン	テキストP１９６からP２０９の復習および予習	4時間
第13回	**円滑なコミュニケーションについて**	テキストP２１２からP２２２の復習および予習	4時間

	・言語による接遇 ・外見や行動による接遇		
第14回	**まとめ** ・関連法規と関連制度 ・いろいろなマーク ・バリアフリー設備の理解 ・まとめ	テキストP２２４からP２４２の復習および予習	4時間

622

授業科目名	**観光マーケティング**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

本講義では、まず観光産業における「商品」が何であるかを考えます。観光産業の中でも、航空会社、旅行会社、地域、空港会社などにより商品は違いますが、商品は違っても人の興味を惹きつける魅力的な商品を造成、販売するためにはマーケティング戦略が重要な役割を担います。それぞれの主体が行っている具体的なマーケティング戦略をSWOT分析、4P分析、STP分析等を通じて学びます。また、実際に旅行商品を企画し、その商品を販売するためのマーケティング戦略について発表を行います。お互いに評価、ディスカッションすることで観光マーケティングへの理解を深めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光による地域の活性化法をマーケティング理論を応用して実践する力。	観光マーケティングの枠組みを理解し、それを実践できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		経済・社会・文化的変容をもとに、地域の課題を検討できる。
2. DP5.計画・立案力		地域の課題を解決するためのマーケティング理論を応用して戦略的な指針を立てられる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「評価しない」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	10 %	： 授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。
小テスト	30 %	： 理解度を確かめるために小テストを2回行います。各回15点で評価します。
個人発表	30 %	： 旅行商品を企画し、そのプロモーション方法を発表します。独自のルーブリックに基づき評価します。
最終レポート	30 %	： 個人発表した内容を、レポートとしてまとめます。独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

小川進（2016）『はじめてのマーケティング』筑摩書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと観光マーケティングの概要** 授業の進め方の説明。観光産業においても売れる「商品」を企画し、消費者に興味を持ってもらうためにはマーケティング戦略が重要である。観光におけるマーケティングの意義と役割を学ぶ。 グループ分け。	マーケティングについて復習する。	4時間
第2回	**観光マーケティングの考え方** 観光における「商品」は何であるかを考える。消費者に興味を持ってもらえる「商品」を企画、造成するには、また販売するにはどうすればよいのか考え、学ぶ。	観光における「商品」が何であるかを考える。	4時間
第3回	**航空会社のマーケティング1 - 航空産業の歴史** 航空産業の歴史を学ぶ。ローコストキャリア（LCC）の誕生の経緯を学ぶ。	日本におけるLCCの誕生はいつかを調べる。	4時間
第4回	**航空会社のマーケティング2 - フルサービスキャリア（FSC）の戦略** フルサービスキャリアのマーケティング戦略を4P分析を通して学ぶ。	フルサービスキャリア（FSC）とは、どんな航空会社を意味するのか調べる。4Pは何かを調べる。	4時間
第5回	**航空会社のマーケティング3 - ローコストキャリア（LCC）の戦略** LCCのマーケティング戦略をSTP分析、4P分析を通して学ぶ。FSCのマーケティング戦略と何が違うかを考える。	日本のLCCにはどんな航空会社があるかを調べる。LCCのサービス内容を調べる。STP分析とは何か調べる。	4時間
第6回	**旅行会社の商品づくり/第1回小テスト** 旅行会社が販売している商品について考える。旅行商品の種類について学ぶ。販売方法について学ぶ。	どんな旅行商品を企画したいかを考える。	4時間
第7回	**旅行会社のマーケティング+グループワーク①** 旅行会社は「旅行商品」を企画、販売するに当たってのマーケティング活動を4P分析を通じて考える。 グループワーク。グループで「旅行商品」を企画する。最終日に発表する。	企画する旅行目的地の下調べをしてくる。	4時間
第8回	**地域観光におけるマーケティング** 地域観光の「商品」は何かを考える。どういう商品づくりをしているかを考える。観光客誘致のために地域が実践しているマーケティング活動を学ぶ。	日本のそれぞれの地域は観光客誘致のために、何をしているかを考える。調べてまとめる。	4時間
第9回	**デジタルマーケティング** 観光業に限らず、現在のマーケティング活動はデジタルに移行している。デジタルマーケティングの手法と利点を学ぶ。	デジタルマーケティングとは何かを調べる。	4時間
第10回	**空港会社のマーケティング/第2回小テスト** 日本においても空港会社の民営化が進んでいる。空港会社は新規就航航空会社誘致、新規路線の誘致のために行っているマーケティングを学ぶ。	関西国際空港が実践しているマーケティング活動を調べてまとめる。	4時間
第11回	**観光局のマーケティング** 海外の国、都市によっては日本に政府観光局を設置している。日本における政府観光局のマーケティング活動をする意義を考える。	日本における海外の政府観光局はどの国/地域があるか調べる。観光局の役割について考える。	4時間
第12回	**日本のインバウンド/MICEビジネス** 日本が観光立国を目指す意義を考える。インバウンド客誘致のために行っているマーケティング活動について学ぶ。MICE誘致をする意義を考える。MICE誘致のためのマーケティング活動について学ぶ。	ビジットジャパンキャンペーンについて調べる。MICEとは何かを調べる。	4時間
第13回	**グループワーク②** グループで企画した旅行商品を仕上げる。発表に向けての資料作り。	MICEとは何かを調べる。日本が誘致したMICEにどんなものがあるか調べる。	4時間
第14回	**グループプレゼンテーション** グループで企画した「旅行商品」、販売するためのマーケティング戦略の発表。クラスメイトの発表の評価、ディスカッション。	自分の企画した「旅行商品」を完成させ、販売方法を考える。発表資料を作成する。授業後は、発表内容をレポートにまとめ提出。	4時間

622

授業科目名	**観光調査法**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

地域が観光客を誘致するため、また旅行会社が有効な「商品」を造成するためには、人のニーズ、意識、動向などを知ることが重要です。本講義では、それらの情報を収集するための調査方法、分析方法を学びます。既存のデータを読み、分析を行います。その後、グループ単位で実際にアンケートを作成し、調査、データ収集、分析を行います。エクセルを使って、収集したデータを入力し、グラフを作成し、分析内容をパワーポイントを使って発表資料を作成します。最終日にグループで発表し、お互いに評価し合い、ディスカッションをします。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光産業や地域の課題解決に関する調査分析能力を実践の中で応用できる。	アンケートで収集したデータをもとに、観光に関わる動向を自己分析できる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		調査を通じて、地域の抱える課題を発見できる。
2. DP8.意思疎通		自分の意見、分析した内容などえを人に理解してもらえるように伝達できる。
3. DP9.役割理解・連携行動		グループ内で役割分担をし、それぞれの役割の責任を果たすことで共同で一つの成果を上げることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「評価しない」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
授業への参加度	10 %	:	授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。
課題レポート	30 %	:	授業内の課題各回15点で評価します。
グループ発表	30 %	:	グループで調査、分析、発表をします。分析内容、資料作成、発表資料を総合的に独自のルーブリックに基づいて評価します。
最終レポート	30 %	:	グループで発表した内容を個人で報告書にまとめます。内容、報告書の書き方を総合的にルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

轟亮・杉野勇・平沢和司編『入門・社会調査法［第4版］』法律文化社、2021年
辻義人『Excelによるアンケート調査の第一歩』ナカニシヤ出版、2014年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。授業内はマナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第１回	**オリエンテーションと観光調査法の概要** 授業の進め方の説明。観光をする主体である人々のニーズを知ることは、地域に観光客誘致するためにも重要である。その情報収集のための有効な手段である調査の意義、手法を学ぶ。 グループで調査、分析、授業最終日に発表するグループ分けを行う。	何について調査するか考えてみる。	4時間
第２回	**様々な調査法の特徴** 調査方法には様々な種類がある。それぞれの特徴を学び、調査内容に最適な調査法の選び方を考える。	授業後、グループ発表の調査テーマを決める。	4時間
第３回	**観光統計の読み方1 － 旅行・観光消費動向調査** 観光庁の統計を使い、国内旅行の消費動向のデータを調べ、分析する。	観光庁の統計を調べ、そのデータから何が読み取れるか考え、まとめる。	4時間
第４回	**観光統計の読み方2 － 訪日外国人消費動向調査** 観光庁の統計を使い、訪日外国人の消費動向のデータを調べ、分析する。	観光庁の統計を調べ、そのデータから何が読み取れるか考え、まとめる。	4時間
第５回	**調査結果のまとめ方/第1回課題提出** 報告書の作成手法を学ぶ。第3回、第4回のどちらかの観光統計の分析を報告書としてまとめて提出。	観光に関する報告書の文献を探す、調べる。課題の報告書をまとめる。	4時間
第６回	**様々なグラフの作成方法1（エクセル操作方法） － 棒グラフ、折れ線グラフ** データ入力の実践。エクセルを使って棒グラフ、折れ線グラフを作成する。	エクセルで棒グラフ、折れ線グラフ作成の復習。	4時間
第７回	**様々なグラフの作成方法2（エクセル操作方法） － 円グラフ** データ入力の実践。エクセルを使って円グラフを作成する。	データ入力後、最も最適なグラフを作成する。	4時間
第８回	**標準偏差とは？** 標準偏差は何かを学ぶ。平均と標準偏差の違いを学ぶ。標準偏差を使う意義を知る。	授業後、標準偏差に関して復習し、標準偏差を使う場面を考えまとめる。	4時間
第９回	**調査アンケートの設計** アンケートを実施する際に注意すべき点を学ぶ。質問の組み立て方を学び、アンケートの具体的な質問内容を考える。	授業後、グループでテーマに沿った質問内容を考える。	4時間
第１０回	**インターネットアンケートの作成方法/第2回課題提出** インターネットアンケートの作成方法を学ぶ。実際にアンケートをしてみる。	授業後の課題提出。簡単なインターネットアンケートを作成する。	4時間
第１１回	**グループワーク①（アンケート作成）** 各グループのテーマに沿ったアンケートを作成する。仮説を立てる。	アンケート内容の精査	4時間
第１２回	**グループワーク②（アンケート実施、集計、分析）** アンケートを実施、集計、分析をする。	インターネットアンケートの作成後、アンケートの実施、集計、分析をする。	4時間
第１３回	**グループワーク③（アンケート実施、集計、分析。発表資料の作成。）** アンケート結果をまとめ、発表資料を作成する。	アンケートの実施、集計、分析をする。	4時間
第１４回	**グループ発表** 各グループの発表、他グループ発表の評価、ディスカッション。	授業後、各グループの発表資料に基づき、個人で報告書を作成、提出する。	4時間

622

授業科目名	**卒業研究Ⅰ**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光学の基礎を学んだ上で、自ら課題を設定し研究レポート作成することを目的とします。
まず、観光学の入門書を輪読します。方法は各々が担当した章を要約しパワーポイントを使い発表します。これにより、学術的に観光とは何か？ということを理解します。
卒業研究の執筆に備えワードでの文章作成、提出を複数回求めます。
次にそれを踏まえて、自ら課題を設定して、資料を収集して、研究計画書を作成します。完成後、その成果を口頭発表するとともに全員で議論して、後期で作成する研究レポートの基礎を固めます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光学に関する知識	観光を学術的に理解する
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		研究テーマを自ら設定する
2. DP6.行動・実践		課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
輪読発表	50 %	： 中間の発表に関して、内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
毎回のレポート	30 %	： 各回のレポートを提出。授業の理解度によって評価します。理解してていれば1.5点　独自の見解がなされれいれば２点。理解不十分は１点。未提出は０点
レポート	20 %	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹内正人編著	・『入門　観光学』改訂版	・ミネルヴァ書房	・2024　年

参考文献等

新田誠吾『はじめてでも、ふたたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎（2019年）

履修上の注意・備考・メッセージ

発表者に対して、必ず質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： 特になし

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**観光学とは何か** そもそも観光学とはどのうような学問なのか、またどのような専門分野があるのかを学習します。 研究倫理教育をします。 発表スケジュールと担当を決定します。 ミニ講義：観光学とは	観光学について復習する	4時間
第2回	**観光の歴史** 『入門　観光学』を教科書とします。論文要約の手法を学ぶとともに、担当した章を要約します。	担当の章を熟読する	4時間
第3回	**観光と旅行者の行動** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約する。	担当の章を熟読する	4時間
第4回	**観光と産業・経済** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第5回	**旅行産業** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第6回	**宿泊産業** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第7回	**運輸産業** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第8回	**テーマパーク産業** 『入門　観光学』のなかで担当した章を要約しレジュメとしてまとめて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第9回	**文化施設と集客** 研究計画書の作成と研究レポートの構成要素について学びます	研究テーマについて考察する	4時間
第10回	**観光産業とホスピタリティ** 資料を収集して研究計画書を作成します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第11回	**観光立国と国際観光** 資料を収集して研究計画書を作成します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第12回	**コンテンツツーリズム** 研究計画をパワーポイントを用いて発表します。	次週の発表の章を熟読する	4時間
第13回	**ブライダルと観光** 研究計画をパワーポイントを用いて発表します。	抽出した課題を分析する	4時間
第14回	**研究計画書の作成** 研究計画書の作成と研究レポートの構成要素について学びます。	研究計画書を作成する	4時間

622

授業科目名	**卒業研究Ⅰ**				
担当教員名	**麻畠 徳子**				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

観光学の基礎を学んだ上で、自ら課題を設定し研究レポートを作成することを目的とします。まず、観光学の研究課題について、指定教科書をつうじて学びます。研究課題領域としては、観光学の基礎知識、主な観光産業の実態、ホスピタリティ、ニューツーリズム等について学びます。基本的な研究領域について学んだうえで、自分がどの分野に興味が関心があるかを見極め、研究テーマを設定します。この授業の学びを、後期科目「卒業研究Ⅱ」で作成する研究レポートの基礎固めにつなげます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光学に関する知識。	観光を学術的に理解する。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		研究テーマを自ら設定する。
2. DP6.行動・実践		課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
平常点	30 %	： 毎回の授業時に出す課題について、内容・独自性・論理的思考など独自のルーブリックに基づいて３段階で評価します。
小テスト	60 %	： 小テストを２０点満点で３回実施します。記述式で内容理解、ストーリーの展開、独創性など独自のルーブリックにより５段階で評価します。
期末レポート	10 %	： 後期に執筆する予定の卒業論文・レポートについて研究計画書のテーマ、研究背景、仮説、分析方法、展望などの基準に沿って1000字程度で書けているかについて独自のルーブリックにより５段階で評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹内正人編著	・『入門観光学　改訂版』	・ミネルヴァ書房	・2024　年

参考文献等

特になし

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜１限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**旅行産業** 旅行産業の特質、旅行産業の形態、旅行産業の現状と展望について学習します。	旅行産業の業界についてまとめる	4時間
第2回	**宿泊産業** 宿泊産業の現状、宿泊施設の運営、宿泊産業の新しい展開について学びます。	宿泊産業の業界についてまとめる	4時間
第3回	**運輸産業** 運輸産業の特質、航空会社の経営戦略、ＬＣＣの発展について学びます。	運輸産業の業界についてまとめる	4時間
第4回	**主な観光産業の小活と小テスト①** 観光の要である、旅行、宿泊、運輸業界についてのまとめと小テストを行います。	テストの問題用紙を見直し、復習を行う	4時間
第5回	**テーマパーク産業** テーマパークの歴史、産業、展望について学習します。	遊園地・テーマパークの違いとＵＳＪの再生についてまとめる	4時間
第6回	**文化施設と集客** 文化施設と観光、博物館・美術館と集客、これからの博物館・美術館について学びます。	文化施設と地方への集客について考える	4時間
第7回	**観光産業とホスピタリティ** サービスと観光、ホスピタリティの論理、観光の本質とホスピタリティについて学びます。	観光産業において必要なホスピタリティマインドを考える	4時間
第8回	**観光アトラクションの小活と小テスト②** テーマパーク、文化施設、観光とホスピタリティについてのまとめと小テスト②を行います。	テストの問題用紙を見直し、復習を行う	4時間
第9回	**コンテンツツーリズム・メディカルツーリズム、ダークツーリズム** 応用観光論の中でコンテンツ・メディカル・ダークツーリズムを取り上げ、学習します。	各分野で興味があったツーリズム形態を取り上げ、自分なりに事例を調べる。	4時間
第10回	**ブライダルとフードツーリズム** 応用観光論の中でブライダルとフードツーリズムを取り上げ、学習します。	各分野で興味があったツーリズム形態を取り上げ、自分なりに事例を調べる。	4時間
第11回	**ニューツーリズムと小テスト③** 応用観光論についてのまとめと小テスト③を行います。また、小テスト終了後は研究計画書についての作成方法を説明します。	テキストを熟読し、自分の研究テーマにあう分野を選ぶ	4時間
第12回	**研究計画書作成前の研究倫理教育** 研究倫理教育の動画資料を観ながら、論文執筆前に重要な基礎事項を学びます。	引用文献や著作権など、研究倫理について復習する	4時間
第13回	**研究計画書作成のための先行研究調査** これまでの卒業生が執筆した論文集を中心に、自分の関心がある分野の論文を読む。また、各分野のパターンごとのアウトラインを参照し、自分なりのオリジナリティある研究テーマ提示と論立てを行う。	自分の分野に関わる先行研究をおさらいする	4時間
第14回	**研究計画書の手直し** 自分が後期執筆する卒業論文・レポートに合わせて、論理構成をアウトラインに従って作成する。	研究計画書の見直しとそれに関わる文献調査	4時間

622

授業科目名	**卒業研究Ⅱ**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期の「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、研究レポートの完成を目指します。まずは、レポートのフレームワーク及び論の組み立て方を理解して、あわせてレポート執筆上の作法（引用文献の選択、引用の付け方、注の付け方、文献リストの作成）を学びます。その上で必要とされる調査、資料収集を実施して研究レポートの作成を進めるとともに研究発表を実施し、問題を抽出します。それを踏まえて研究レポートを完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光学に関する知識	観光を学術的に理解する
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		研究レポートの課題を自ら設定する
2. DP6.行動・実践		課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

成績評価

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
研究発表	50 %	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
研究レポート作成	50 %	： 内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹内正人編著	・『入門　観光学』改訂版	・ ミネルヴァ書房	・ 2024　年

参考文献等

新田誠吾『はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！レポート・論文のまとめ方』すばる舎（2019年）

履修上の注意・備考・メッセージ

発表者に対して、必ず質問することを義務とする。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 水曜３限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画	学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間

第1回	**オリエンテーション** 本演習の趣旨を発表します 自身の研究テーマについて考えます。	進捗状況の整理をする	4時間
第2回	**論文のフレームワーク①　序論　本論　結論** 序論、本論　結論で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、研究目的・研究方法　結果　考察）	発表テーマを考える	4時間
第3回	**調査について学ぶ** 資料収集　文献調査　アンケート　インタビューについて学びます。	本論の構成を考える	4時間
第4回	**研究テーマを考える** 論文における結論とは何か、を学びます。つまり、研究成果のまとめ、結論の提示、当該研究分野における自身の研究の位置づけ、研究の意義を学びます。 各自は卒業レポートのテーマを考えます。	研究テーマの候補を考え、文献を整理しておく	4時間
	卒業研究（レポート・論文）の研究テーマを決定し、卒業レポートに関して研究計画書にまとめます。		
第6回	**研究テーマの発表** 一人一人の研究テーマと論の構成、手法について研究計画書を用いて発表します。	各自のテーマを聴いて自分の計画書を修正	4時間
第7回	**卒業研究作成** 研究計画書に従って各自がレポート作業もしくは論文作成作業を行います。 特に文献調査を行います。	文献調査	4時間
第8回	**卒業研究作成と中間報告①** 主に序論について作成します。 執筆した原稿を添削指導します。	論文執筆における作法を確認する	4時間
第9回	**卒業研究作成と中間報告②** 主に本論について作成します。 執筆した原稿を添削指導します。 主旨を発表し質問を受け付け回答します。	統計資料などをまとめる。アンケート実施する	4時間
第10回	**卒業研究作成と中間報告③** 主に本論について作成します。 前週の発表での質問回答、意見に基づき内容のブラッシュアップをします。 引きつづき添削指導します。	文章校正等を行う	4時間
第11回	**レポート完成作業** 主に結論、まとめについての執筆を行います。 引き続気添削作業を行います。	論文作法について復習する	4時間
第12回	**発表用資料の作成** これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめます。	抽出された課題を分析する	4時間
第13回	**研究レポート発表** これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間
第14回	**研究レポート発表とレポート提出** これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。 １４回終了後、期日までに完成させた研究レポートまたは論文を提出します。	抽出した課題を分析する	4時間

622

授業科目名	**卒業研究Ⅱ**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「不可」

授業概要

前期の「卒業研究Ⅰ」で学習したことを踏まえて、自分の研究レポートを作成します。レポートのフレームワーク及び論の組み立て方を理解し、あわせてレポート執筆上の作法（引用文献の選択、引用の付け方、注の付け方、文献リストの作成）を学びます。その上で必要とされる調査、資料収集を実施して研究レポートの作成を進めるとともに、研究発表を実施し、発表課題における問題点を抽出します。それらを踏まえて論文を校正し、研究レポートを完成させます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光学に関する知識。	観光を学術的に理解する。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		研究レポートの課題を自ら設定する。
2. DP6.行動・実践		課題解決に向けて調査や資料収集を行い、結論を導き出す。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ放棄とみなし、成績評価を「-（評価しない）」とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準	
研究発表	30 %	:	内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
期末レポート	60 %	:	期末レポート（卒業論文・レポート）作成内容の妥当性について、独自のルーブリックに基づいて評価します。
授業貢献度	10 %	:	授業内で配布する課題に取り組み、その内容と取り組む姿勢、課題の提出率を総合的に評価し、素点の10%に換算します。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
竹内正人編著	・『入門観光学　改訂版』	・ミネルヴァ書房	・2024　年

参考文献等

井上千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法』慶應義塾大学出版会

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。また、学科科目「観光調査法」の履修を推奨す

る。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**研究計画書の見直しとプレゼンテーション** 自身の研究テーマの進捗状況を報告します。	進捗状況の整理をする	4時間
第2回	**論文のフレームワーク①序論箇条書き作成** 序論で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、研究目的）。また具体的なアウトラインを描きます。	序論の構成を考える	4時間
第3回	**論文のフレームワーク②本論箇条書き作成** 本論を構成する論理の階層構造（研究方法、結果、考察）について学びます。また具体的なアウトラインを描きます。	本論の構成を考える	4時間
第4回	**論文のフレームワーク③結論箇条書き作成** 論文における結論とは何か、を学びます。つまり、研究成果のまとめ、結論の提示、当該研究分野における自身の研究の位置づけ、研究の意義を学びます。また具体的なアウトラインを描きます。	仮説を立ててみる	4時間
第5回	**研究手法①定性調査** インタビューや聞取りを主体とする定性調査の手法について、自身の研究テーマに沿って学びます。	調査表を作成する	4時間
第6回	**研究手法②定量調査** アンケート表の作成を中心とする定量調査について、自身の研究テーマに沿って学びます。	アンケート項目を作成する	4時間
第7回	**論文の構成** 論文の構成要素について学びます。	論文執筆における作法を確認する	4時間
第8回	**研究手法③文献調査** 序論の研究背景で述べなければならない事項を学びます（問題の背景、研究の目的）。	序論の構成を行う	4時間
第9回	**論文のフレームワーク①序論作成** 前回の文献調査を基に、実際に序論を書き始める。	これまでに明らかになっていないことを明確にする	4時間
第10回	**論文のフレームワーク②本論作成** 調査報告書や統計資料の扱い方について、自身の研究テーマに沿って書き始めます。	統計資料などをまとめる	4時間
第11回	**論文のフレームワーク③結論作成** 論文における結論について書き始めます。	仮説を立ててみる	4時間
第12回	**論文作法** 研究成果をレジュメにまとめて発表します。	論文作法について復習する	4時間
第13回	**研究レポート発表①自分の研究発表の討議** これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間
第14回	**研究レポート発表②他者の研究発表の討議** これまでの研究成果をレジュメ、あるいはパワーポイントにまとめて発表します。発表者以外も必ず議論に参加してください。	抽出された課題を分析する	4時間

622

授業科目名	**秘書学概論**				
担当教員名	岡 尚子				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	百貨店の人事部にて採用・教育を担当。 現在、研修講師としてビジネスマナー研修、接遇研修に従事。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業ではビジネス社会において他者との関係性の理解を養うことを目的とします。
社会人として必要な接遇の実践的な知識を身につけビジネス社会における円滑なコミュニケーションの築き方を学びます。
またビジネス電話とプライベート電話との違いに気づき、社会人としての正しい言葉遣いから対面応対ではなく、声と言葉だけの接遇意識をもった応対ができるレベルを目指します。
即現場で使える電話応対スキルとして、企業へのアポイントメントの取り方、電話の受け方を学習します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP2.専門的知識・技能、職業理解	ビジネス現場での電話応対を論理的に考え、現場事例を多く考える。	ビジネス電話言葉表現を身につけることができる。
2. DP1.幅広い教養やスキル	「おもてなし」接遇を理解し、人への配慮とはを実践できるように実技を多く取り入れる。	実技を取り入れることで実践力を強化できる。

汎用的な力	
1. DP6.行動・実践	聞き取れる声を作る。電話で躊躇せずに就職先に連絡ができる。
2. DP8.意思疎通	対人技能で得意とするところはさらに伸ばすことができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・実験、実技、実習
・問答法・コメントを求める
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします
・実技・実習後、全体に向けてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。3回の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
演習態度	30 %	： 演習問題から発表、実践態度を独自のルーブリックに基づいて評価する。
実技試験	20 %	： 授業内容から実技試験を2回実施し、試験の素点から理解度を評価する。
小テスト	25 %	： 演習問題から筆記試験を1回実施し、試験の素点から理解度を評価する。
定期試験（レポート）	25 %	： 課題に対する理解度とレポートの書き方について独自のルーブリックに基づいて評価する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後

場所： 授業の教室

備考・注意事項： 授業の前後以外で質問をしたい場合は、メールにて受け付ける。
（oka-n@g.osaka-seikei.ac.jp）メールには必ず氏名を明記すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**ガイダンス・授業の概要** ・授業の進め方、受け方と評価方法について説明する。 ・授業の概要について確認する。 ・身だしなみの重要性を認識する。	本日の課題をレポートに用紙にまとめる。	4時間
第2回	**ビジネスに必要とされる要件** ・ビジネス文書の基本を学ぶ。 ・ビジネスメールの書き方の基本を学ぶ。	本日の必要とされる要件問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第3回	**専門知識・実技試験1回目** ・良識を持った素直な態度とクレームに繋がるであろう態度との違いを確認する。 ・適切かつ協調性のある行動を理解する。 ・報告・連絡・相談の重要性を確認する。	本日の従業要件問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第4回	**対人技能（1）第一印象の必要性** ・第一印象の必要性を認識する。 ・他者の質問に対して受け答えの仕方を学ぶ。	本日の専門知識問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第5回	**対人技能（2）接遇知識** ・人間関係の重要性を確認する。 ・ビジネスマナー、一般的なマナーを学ぶ。	本日の接遇知識問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第6回	**対人技能（3）話し方** ・状況に応じた言葉遣い、適切な敬語、接遇用語を学ぶ。 ・真意を捉える聞き方を学ぶ。 ・忠告の受け方を学ぶ。	本日の接遇用語問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第7回	**実務技能（1）食事・訪問のマナー** ・食事についての基本的な作法を学ぶ。 ・名刺交換から訪問することを体感する。	本日の確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第8回	**実務技能（2）社交業務** ・社交業務とは何かを理解する。 ・慶弔を学ぶ。	本日の慶弔問題の再確認と他の問題を宿題とする。	4時間
第9回	**小テスト　1回目** ・今回までの復習 ・筆記試験を実施する。 ・敬語の演習問題を考える。	筆記試験の再確認	4時間
第10回	**ビジネス電話実務の基本（1）言葉遣い** ・前回の筆記試験の振り返り ・ビジネス電話とは（プライベート電話との違い） ・言葉遣い（敬語・接遇用語）の演習をする。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第11回	**ビジネス電話実務の基本（2）電話をかける** ・発声練習 ・ビジネス電話　応酬話法「かける」 （企業へアポイントメントを想定しての電話応対練習） （企業の担当者としてアポイントメントの取り方練習）	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第12回	**ビジネス電話実務の基本（3）電話を受ける**	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間

	・発声練習 ・ビジネス電話　応酬話法「受ける」 （第一声の確認、聞き取りの練習、相手を確認し復唱するときの言葉遣い）		
第13回	**実技試験2回目（グループディスカッション）** ・今回までの復習 ・実技試験（グループディスカッション）を実施する。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間
第14回	**授業総括** ・前回の実技試験の振り返り ・接遇と話法の一つである声、話し方を意識して体現する。 ・期末試験（レポート）について注意事項を説明する。	本日の内容をレポート用紙にまとめる。	4時間

622

授業科目名	**日本語表現**				
担当教員名	米谷 徳恵				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可」

授業概要

本講義では、文書作成を学びます。思ったこと、感じたことを話し言葉では無く、書き言葉として文書化させる演習を重ねることにより、短時間で、自分の思いを文書化させることができる能力をつけていきます。文書化能力は、自分の考え方をまとめることができるようになります。理論的かつ客観性をもった考え方ができるようになります。また、正しい日本語表現を学ぶことにもなり、話し言葉と書き言葉との違いも学習します。原稿用紙に手書きで時間内に書く訓練を続きます。これにより、小論文を書く能力も養われていきます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	社会人として必要な語彙力、文書作成能力	自分の考えを分かりやすく、論理的にまとめ文書化することができる。
汎用的な力		
1. DP5.計画・立案力		自分の考えを論理的かつ具体的な表現でまとめることができる
2. DP6.行動・実践		美しい文字が書けるようになる
3. DP8.意思疎通		正しい日本語で文書化する事ができる
4. DP7.完遂		時間内に1000文字以上の文書を構成、作成できる

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・実験、実技、実習

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」とします。
10分以上の遅刻はみとめない。2回の遅刻で1回の欠席とみなします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の課題に関する制作物の提出	40 %	： 毎回提出の文書毎に独自の評価方法で採点する。
期末試験	60 %	： 授業のまとめとして期末試験を実施する。独自の評価方法で採点する。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

特に無し

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎回4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。
毎回、課題に沿った文章をかいてもらうが、課題をこなしていくうちに語彙力や文章力が上達するしている事を実感できる。
なお、毎回授業で使用するため、国語辞書または、電子辞書を準備しておくこと。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 授業の前後など（金曜1限・２限）

場所： 授業教室

備考・注意事項： 事前に連絡がとりたいときは、kometani.n@ark.ocn.ne.jpに連絡すること。

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと自己紹介文の作成** ・講義の進め方 ・自己紹介文を書くための要点の整理法を説明。 ・原稿用紙（縦書き）のルール説明。 ・実技；自己紹介文を時間内に作成し、提出する。	最初の授業で自己紹介を自分なりに整理しておくこと。	4時間
第2回	**書き言葉、話し言葉** ・文章を書く際に話し言葉になっていないかを確認する。 ・書き言葉と話し言葉の違いを学習する。 ・練習問題に取り組むことで更に学習する。 ・美しい文字の書き方を学習する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第3回	**語彙力ー熟語（1）同音異義語** 前回添削結果をベースに、書き言葉と話し言葉に注意しながら練習問題に取り組む。 熟語、四字熟語、同音異義語等について学習する。 熟語を使った、短文を作成する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第4回	**語彙力ー熟語（2）四字熟語** 前回の提出物の添削を基に、課題を見つけ出す。 更に、語彙力を高めるために熟語、四字熟語、その意味について学習する。 学習した熟語を使って作文をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第5回	**語彙力ー敬語表現** 前回の提出物の添削を基に、課題を見つけ出す。 正しい敬語を再確認する。 社会生活で活用できる敬語（尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語等）について学習する。 学習した言葉を使用し、作文をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第6回	**感想文ーコラムを読んで** ・朝日新聞コラム「天声人語」を書き写し、そのうえで感想文を作成する。 ・論理的な構成と事実と意見の使い分けを学ぶ。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第7回	**批評文ー「赤ちゃんポスト」の記事より** ・2017年熊本の赤ちゃんポスト開設においての日経新聞記事を読んで自分の意見をもつ。 ・人の生命への自分の考えを主張する文章を作成する。 ・少子化への提言を考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第8回	**朗読文ー「野ばら」より** ・やさしく聞ける日本の名作より小川未明の「野ばら」を聞き、感想文を作成する。 ・美しい日本語の表現について学習する。 ・同時に戦争とは何かを考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGｓについて事前に調べておくこと。	4時間
第9回	**朗読文ー「古都」より** ・やさしく聞ける日本の名作より川端康成の「古都」を聞き、感想文を作成する。 ・美しい日本語の表現について学習する。 ・同時に京都の伝統文化についても考察する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGｓについて事前に調べておくこと。	4時間
第10回	**回答文ー「新聞の人生相談」を見て** ・新聞の人生相談記事をみて、回答文を書く。 ・結論を導き出すプロセスを考えることを学習する。 ・書いた作文を読み合い、互いの考えについて評価、感想を言い合う。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGｓについて事前に調べておくこと。	4時間
第11回	**創作文ー「旅と私」のエッセイより** ・エッセイの書き方について学習する。 ・実際に、「旅と私」でエッセイを書いてみる。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。SDGｓについて事前に調べておくこと。	4時間
第12回	**提案文ー「私にもできるSDGｓ」** ・SDGｓの17項目で、自分でも取り組める活動を考える。 ・活動内容について作文する。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間

第13回	**感想文ー「感動する話し」致知出版より** 偉業を遂げた偉人の話しを読み、感想文を書く。 まとめとして実施する「私の10年後」に向けての参考文ともなる。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間
第14回	**創作文ーテーマ「10年後の私」** これまで学習してきたことを整理しながら作文をする。 培ってきた文書力、語彙力を活かして原稿用紙3枚（1200文字）創作をする。	前回提出した文書の添削箇所を確認し、学習すること。	4時間

622

授業科目名	**観光まちづくり論**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

日本の地域では人口減少、過疎化により様々な問題を抱えています。その問題解決案の一つとしての「まちづくり」を考えます。小さな単位である商店街のまちづくりから、より大きな単位である自治体のまちづくりを実践の具体例を学びます。その上で、自分の考えるまちづくりを企画し、発表します。
また日本全体で見ると、2003年にビジット・ジャパン事業が始まり、2007年には観光立国推進基本法が成立しました。2003年に520万人であった訪日外国人数は、コロナ前の2019年には3,100万人を超えました。2030年の目標はコロナ前と変わらず6,000万人を目指しています。日本が観光立国を目指す理由を考え、その重要性を学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	興味のある地域を調べ、自分なりの観光まちづくり案を考え発表することで幅広い知識を得る。	地域活性化の必要性を理解し、観光による集客方法を考えられる。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		収集した資料から、地域、まちのかかえる課題を検討できる。
2. DP5.計画・立案力		具体的に、自分の考えるまちづくり案を考え、人にわかり易く伝えることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・ディベート、討論

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「-」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への参加度	10 %	： 授業内の発言や、ディスカッションへの積極性を評価します。
小テスト	30 %	： 理解度を確かめるために2回の小テストを行います。独自のルーブリックにより評価します。
個人発表	30 %	： 自分なりの観光まちづくり、をテーマに個人発表をします。また、クラスメイトの発表に対して評価をします。独自のルーブリックにより評価します。
最終レポート	30 %	： 発表した内容をレポートにまとめます。内容、まとめ方を総合的に独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

大下茂（2011）『行ってみたい！と思わせる「集客まちづくり」の技術』学陽書房

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションと観光まちづくり論の概要** 授業の進め方の説明。「まちづくり」とは何かを考える。「まちづくり」をすることの意味、「観光」という観点で「まちづくり」をする目的を学び理解する。	なぜ「まちづくり」をするのかを考えまとめる。	4時間
第2回	**日本社会の現状** 人口減少傾向にある日本においても、その人口動静は地域によって違う。地域の現状を知り、問題点を考える。	過疎化に陥っている地域の問題点を調べまとめる。	4時間
第3回	**観光まちづくりによる地域活性化** 観光まちづくりを通して地域活性化を図る意義、手法を学ぶ。	地域活性化とは何かを調べる。	4時間
第4回	**観光まちづくりをするにあたり考慮すべき点** 観光まちづくりを考える際、最初に考えなければならない点を検討する。	観光まちづくりをするにあったって、どういう点を検討すべきかを調べ、考え、まとめる。	4時間
第5回	**商店街のまちづくり/第1回小テスト** 「まちづくり」は、自治体よりも小さい単位でも実践されている。商店街を例に取り上げ、その実践を学ぶ。	身近な商店街で、どんなまちづくりが行われているか調べる。	4時間
第6回	**日本における観光まちづくりの具体例1 － 歴史、自然を観光資源とするまちづくり** 「白川郷・五箇山」、「熊野古道」を例として取り上げ、それぞれの観光まちづくりの実践を学ぶ。	白川郷・五箇山、熊野古道がどこにあるか、観光資源に何があるかを調べる。	4時間
第7回	**ニューツーリズム、テーマ別の観光まちづくり** 近年の人々の消費行動は、「モノ消費」から「コト消費」へと変化してきている。従来の「モノ」ではなく、体験などの「コト」に価値を感じるようになってきている。体験型のまちづくりを学ぶ。	ニューツーリズムには、どのようなものがあるか調べる。	4時間
第8回	**日本における観光まちづくりの例2 － 滞在型、体験型の観光まちづくり** 「ニセコ」、「四万十川」の例を取り上げ、それぞれの観光まちづくりの実践を学ぶ。	ニセコ、四万十川について調べる。どこにあるのか、観光資源は何かを調べる。	4時間
第9回	**グループワーク①―自分なりの観光まちづくり。私ならこう考える！** これまでの日本における観光まちづくりの振り返り、自分なりの観光まちづくりをグループで考える。 日本のどの「まち」、「商店街」でもよいので、集客をするにはどうすればよいのか、を考える。最終日にプレゼンする「まち」、「商店街」を発表する。	最終発表で取り上げる「まち」を考える。なぜ、その「まち」を取り上げるかを明確にする。	4時間
第10回	**オーバーツーリズム** コロナ前に起きていたオーバーツーリズムについて学ぶ。そのうえで、オーバーツーリズムを回避するための方策を考える。	オーバーツーリズムについて各自で調べる。どこでどんな状況になっているかを調べ、まとめる。	4時間
第11回	**持続可能なまちづくり/第2回小テスト** 持続可能な開発目標（SDGs）の17の目標のうち11番目の「住みつづけられるまちづくりを」を考える。	SDGについて調べまとめる。	4時間
第12回	**コロナ後の観光まちづくり** コロナの影響により約３年間はヒトの移動が制限されてきた。行動制限が緩くなり、人々の行動が活発になってきている。また、入国制限が緩まるにつれ訪日外国人数も増加してきている。コロナ後のまちづくりを考える。	コロナ前後で人々の行動、考え方、何が変わってきたかを考える。	4時間
第13回	**グループワーク②―最終日の発表資料の作成** 地域だけではなく日本全体の取り組み、実践を学ぶ。日本が観光立国を目指す意義を考える。	各グループの「まち」の下調べをする。	4時間
第14回	**「自分なりの観光まちづくり。私ならこう考える！」の発表（各グループ5分を目安）** 「自分なりの観光まちづくり」の発表、および、クラスメイトの発表の評価、ディスカッション。	これまでの講義内容を踏まえ、「自分なりの観光まちづくり」を完成させる。発表資料の作成をする。授業後、発表内容についてレポートにまとめ、提出。	4時間

622

授業科目名	English for Tourism A				
担当教員名	樫本 英之				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は実践的な英会話が中心の授業です。これまで学んで来た４技能に加え、Viewing Skill, Presentation Skill という二つの技能をカバーする「６技能」を身につけることを目標とします。授業ではペア・グループワーク等を活用し、学修した英語を利用してコミュニケーションをとったり、自分の言葉で意見を発表する機会を数多く設けます。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げし、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。ターゲットとする6技能のうちReading & Writing Skillに重点をおいて展開します。各ユニットの最終まとめとしてエッセイ課題を課します。また、毎回単語テスト（Quiz）を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英語による会話文の組み立てを行い、自分の意思を伝える能力を身につけます。	これまで学修した英語会話を基本に、会話形式やエッセイ形式で自分の意思を表現し相手（読み手）に伝える事ができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		これまでの学修内容を応用し会話を続け、間違いを恐れずに自分の意思を相手に伝える事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Participation: 参加状況	20 %	： 授業内での積極性を独自のマトリックスで評価します。出欠ではありません。
Assignment: 授業外課題・提出課題	30 %	： オンライン課題を含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のマトリックスに基づいて段階評価します。
Quiz: クイズ	20 %	： ボキャブラリーに関する小テスト（Quiz）を定期的に実施することによって理解度及び応用能力を点数で測ります。
試験（エッセイ）	30 %	： 定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課します。評価方法は独自のマトリックスに基づきます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kevin McClure, Mari Vargo	・Q: Skills for Success Listening and Speaking INTRO - Third Edition	・Oxford Unviersity Press	・2020 年

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎週4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室

授業計画

		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Introduction / Classroom Language** この授業の進め方、ゴールを提示します。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認します。また、オンラインツールを使用するための準備をします。	この授業で自分が何を得たいのか、最終レッスンを終えた時点での自分のレベルのイメージを明確にしておくこと。	4時間
第2回	**U1_Social Psychology_1 Reading** Reading - 自己分析・自己紹介についての効果的な方法についてのReading Input。 Reading Skill - トピックとメインアイデアを特定する練習を重ねることで、自己のWriting Skillとしても役立てます。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第3回	**U1_Social Psychology_2 Work with the Video** Work with the Video - 双子のきょうだいについての自己紹介ビデオを見て効果的な自己紹介について学びます。 Critical Thinking Strategy - アイデアをリストアップして取捨選択する方法について学びます。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第4回	**U1_Social Psychology_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、シンプルな文章で答える練習をします。 Grammar - Present Tense中心で構成されたエッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write Sentences to describe Yourself	4時間
第5回	**U2_Education_1 Reading** Reading - 世界にある、少し変わった学校についてのReading Input。 Reading Skill - Scanningについて学びます。日付・時刻・固有名詞の特定を素早くするトレーニングをします。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第6回	**U2_Education_2 Work with the Video** Work with the Video - Readingで知った、ある変わった学校についてVisual情報を交えて学びます。 Critical Thinking Strategy - 物事を比較することによって自分の考えを引き出す練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第7回	**U2_Education_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、やや複雑な構成の文章で答える練習をします。 Grammar - Present Tense中心で構成されたエッセイの書き方を発展させます。	Unit Essay - Give Information about a School	4時間
第8回	**U3_Cultural Studies_1 Reading** Reading - 人は食でお祝いをする - 色んな文化の食に関するReading Input。 Reading Skill - Scanningについて強化します。より幅広い情報をScanするトレーニングをします。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第9回	**U3_Cultural Studies_2 Work with the Video** Work with the Video - Chinese New Yearについて学びます。 Critical Thinking Strategy - トピックの選び方、選ぶ際に何に気を付ければ良いのかを考える練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第10回	**U3_Cultural Studies_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、やや複雑な構成の文章で答える練習をします。 Grammar - 形容詞・副詞の効果的な使い方、エッセイへの反映の仕方を学びます。	Unit Essay - Choosing a Writing Topic	4時間

第11回	**U4_Sociology_1 Reading** Reading - お金がなくても楽しむ方法はある - という記事を読み、理解します。 Reading Skill - アンダーラインとハイライトの重要性、素早く活用する方法を学びます。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第12回	**U4_Sociology_2 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、固有名詞やキャピタライゼーションに気を付けて書く意味とその練習をします。 Grammar - 主格と目的格について、エッセイの中での役割について学びます。	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
第13回	**Learn From Movie_1 Building Vocabulary** これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
第14回	**Learn From Movie_2 Critical Thinking Skill** これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Critical Thinking Skill - 映画の中で重要となっているテーマは何か、どういったトピックが議論になり得るかと言ったことを考えます。感想と意見の違いに留意しながら自分の考えをまとめWriting形式でまとめます。	Unit Essay - My thoughts and opinions about the movie	4時間

622

授業科目名	English for Tourism B				
担当教員名	樫本 英之				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	製薬会社での海外子会社に関わる経理業務（7年）、外資系機械メーカでのグローバルマーケティング経験（8年）（全14回）				

開放科目の指示：「不可」

授業概要

この授業は実践的な英会話が中心の授業です。これまで学んで来た４技能に加え、Viewing Skill, Presentation Skill という二つの技能をカバーする「６技能」を身につけることを目標とします。授業ではペア・グループワーク等を活用し、学修した英語を利用してコミュニケーションをとったり、自分の言葉で意見を発表する機会を数多く設けます。各ユニットごとのフォーカスポイントを明確にしてスキルを積み上げし、自分の言葉で伝える力、表現の幅を広げていきます。扱うトピックは学生にとって身近な話題を選択し、その種類も多岐に渡ります。ターゲットとする6技能のうちReading & Writing Skillに重点をおいて展開します。各ユニットの最終まとめとしてエッセイ課題を課します。また、毎回単語テスト（Quiz）を実施することで、Vocabularyの底上げと語学学習における継続することの重要性を理解します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	英語による会話文の組み立てを行い、自分の意思を伝える能力を身につけます。	これまで学修した英語会話を基本に、会話形式やエッセイ形式で自分の意思を表現し相手（読み手）に伝える事ができる。
汎用的な力		
1. DP8.意思疎通		これまでの学修内容を応用し会話を続け、間違いを恐れずに自分の意思を相手に伝える事ができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・実験、実技、実習

・eラーニング、反転授業

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

・シミュレーション型学習(ロールプレイ、ゲーム型学習など)

課題や取組に対する評価・振り返り

・実習や実技に対して個別にコメントします

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」（評価しない）とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
Class Participation: 参加状況	20 %	： 授業内での積極性を独自のマトリックスで3段階で評価します。出欠ではありません。
Assignment: 授業外課題・提出課題	30 %	： オンライン課題を含む各種タスクやエッセイなどの提出課題を独自のマトリックスに基づいて段階評価します。
Quiz: クイズ	20 %	： Vocabularyクイズを定期的に実施することによって理解度及び応用能力を点数で測ります。
試験（エッセイ）	30 %	： 定期テストとしてテーマ指定のエッセイレポートを課します。評価方法は独自のマトリックスに基づきます。

使用教科書

指定する

著者	タイトル	出版社	出版年
Kevin McClure, Mari Vargo	・Q: Skills for Success Listening and Speaking INTRO - Third Edition	・Oxford Unviersity Press	・2020 年

参考文献等

授業の中で紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は2単位の科目であるため、平均すると毎週4時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜3限

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**Orientation / Classroom Language** この授業の進め方、ゴールを提示します。自己紹介を兼ねて、授業としてのゴールと、個人としてのゴールを確認します。また、オンラインツールを利用するための準備をします。	この授業で自分が何を得たいのか、最終レッスンを終えた時点での自分のレベルのイメージを明確にしておくこと。	4時間
第2回	**U5_Architecture_1 Reading** Reading - 2つのReading Inputにより、建物のDescriptionの方法について練習します。 Reading Skill - アンダーライン、ハイライトの効果的な使用法について学びます。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第3回	**U5_Architecture_2 Work with the Video** Work with the Video - 海外の有名な建築についてビジュアル情報とともに理解し、リスニング強化をします。 Critical Thinking Stragegy - Restatingの重要性とその効果を知り、反復練習をします。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第4回	**U5_Architecture_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、シンプルな文章で答える練習をします。 Grammar - 場所を指し示す前置詞について理解を深め、エッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write Aout Your Favorite Building	4時間
第5回	**U6_Health Sciences_1 Reading** Reading - 変化が習慣に変わる過程、またどのようにして変えていくかをReading Inputによって学びます。 Reading Skill - 代名詞の特定について学びます。素早く特定するトレーニングをします	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第6回	**U6_Health Sciences_2 Work with the Video** Work with the Video - 不健康な習慣について、自身の経験と照らし合わせて内容を理解します。 Critical Thinking Strategy - 解決策を講じるための考え方、提案方法を学びます。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第7回	**U6_Health Sciences_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、編集チェックリストを使って項目に漏れがないかレビューしながら書く方法を学びます。 Grammar - 助動詞の使用法、助動詞を効果的に使ったエッセイの書き方を発展させます。	Unit Essay - Write About How to Change an Unhealthy Habit	4時間
第8回	**U7_Global Studies_1 Reading** Reading - 異文化間のカルチャーショックについてのReading Input。 Reading Skill - これまで学んだスキルを利用しながら、Reading Fluencyを強化します。	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第9回	**U7_Global Studies_2 Work with the Video** Work with the Video - 文化の違いからくる誤解などについて学びます。 Critical Thinking Strategy - 事実と意見の違いについて、その表明の仕方について学び練習します。	Critical Thinking Skillについての課題。オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第10回	**U7_Global Studies_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、文の要素と完全な文章の違いを理解したうえで、わかりやすい文章を書く練習をします。 Grammar - 過去形を中心としたエッセイの書き方を学びます。	Unit Essay - Write About a New Place	4時間
第11回	**U8_Technology_1 Reading**	Reading Vocabularyの強化。指定のオンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間

	Reading - 視覚補助の技術を紹介する記事を読み、理解します。 Reading Skill - これまで学んだスキルを利用しながら、Reading Fluencyを強化します。		
第12回	**U8_Technology_3 Writing Skill** Writing Skill - 与えられたトピックに対して、接続詞を意識してより長い文章を書く意味とその練習をします。 Grammar - 文章の中での時制の役割について深く理解します。	Unit Essay - Write About How You Have Fun	4時間
第13回	**Learn From Movie_1 Building Vocabulary** これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。	オンラインプラクティスの該当箇所を終了させること。	4時間
第14回	**Learn From Movie_2 Writing Skill** これまで学んだ内容を、実践的な英語が使用されている映画を使用して学びます。 Building Vocabulary - 映画の中でキーとなる単語について学びます。 Viewing Skill - 細部にこだわるのではなく、全体の流れをつかむ聞き方、見方について学びます。	Unit Essay - My thoughts and opinions about the movie	4時間

622

授業科目名	**観光ビジネス論**				
担当教員名	**中野 毅**				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	旅行会社、航空会社等の観光産業に長年従事し、観光ビジネスにおける豊富な経験、知識を持つ。（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

観光産業は持続的に成長が期待される分野です。観光は裾野の広い産業であり、運輸や宿泊、飲食業などのほか、多くの産業に経済効果が波及し、雇用や税収、外貨収入などの増加をもたらしています。本授業では、その主要ビジネスである、旅行ビジネス、宿泊ビジネス、運輸ビジネス等に焦点を当てて、観光を構成する主な観光事業の特質、現状、今後の展望についてグローバルの視点から考察します。また、同時に最新の観光産業の動向についても学びます。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	観光全般に対する基本的な知識、幅広い知識を身につける。	全産業における観光産業の比重の大きさ、重要さを理解することが出来る。
2. DP2.専門的知識・技能、職業理解	観光産業における専門的な知識を身につける。	観光産業に対する時代を追った機能や役割を理解し、また観光産業に求められる人材を理解することが出来る。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		観光産業の各セクターにおける課題を見つけることが出来る。取り組むグループワークにおいて課題を発見できる。
2. DP6.行動・実践		グループワークで与えられた課題に対し、自ら率先して動き、やり遂げる力を身につけることができる。
3. DP9.役割理解・連携行動		グループワークでは、役割を分担し、協働して作業をすることができる。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします
・その他(以下に概要を記述)
　グループ発表において、評価、コメントします。

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
期末レポート	20 %	： １４回の授業終了後に期末レポートの提出を求める。学んだ成果を反映したレポートになっているかを、独自のルーブリックに基づいて評価する。
授業への参加意欲	20 %	： 毎回の授業での発言や、取り組む姿勢を独自のルーブリックに基づいて評価する。
グループワークとプレゼンテーション	30 %	： グループワークにおける、積極性、果たす役割、貢献度を評価し、成果物であるプレゼンテーションのまとまりを独自のルーブリックに基づいて評価する。
リアクションペーパー		： 毎回の授業の終わりに提出のリアクション・ペーパーで、学びの程度を独自のルーブリックに基づいて評価する。

30　%

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

国枝よしみ・岡田晃編著（2023）『新しい観光学』，千倉書房（ISBN：978-4805112755）
その他の参考文献は授業中に随時紹介する。

履修上の注意・備考・メッセージ

・日々のニュースから、観光をキーワードに関連する記事があれば資料として残し、常に関心を絶やさないようにする。
・本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。「授業外学修課題」
　に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間：　水曜３限

場所：　西館４階　研究室

備考・注意事項：　メールで質問等も受け付けます。その際タイトルに必ず、学籍番号と氏名を明記してください。

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**観光ビジネスの概要** 14回の授業内容、進め方、評価、グループワークについて解説する。 観光ビジネスの定義とその概要について理解する。	Google Classroom上に配布の資料を読み、観光ビジネスの概略を理解しておく。	4時間
第2回	**旅行業（旅行会社）** 一般的な旅行会社の仕組みと観光ビジネスにおける役割について理解する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供①）	事前に配布の資料を読み、旅行会社について理解しておく。	4時間
第3回	**旅行業（OTA：オンライン・トラベル・エージェンシー）** 近年のOTAにおけるBtoCのビジネスモデルを理解する。 従来型の旅行会社とOTAの同異を考察する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供②）	事前に配布の資料を読み、OTAの仕組みを理解しておく。	4時間
第4回	**旅行業（着地型観光とソリューションビジネス）** 新しい旅行会社のビジネス展開について理解する。 グループワーク（旅行会社についての課題提供③）	事前に配布の資料を読み、旅行会社の新しいビジネス分野を理解しておく。	4時間
第5回	**宿泊業（ホテルビジネス）** ホテルのビジネスモデルを理解する。 グループワーク（宿泊業についての課題提供①）	事前に配布の資料を読み、ホテルの宿泊業について理解しておく。	4時間
第6回	**宿泊業（旅館、その他）** 旅館のビジネスモデルと新しい宿泊形態（民泊、分散型ホテル）を理解する。 グループワーク（宿泊業についての課題提供②）	事前に配布の資料を読み、旅館の宿泊業について理解しておく。	4時間
第7回	**前半の授業の振り返りとグループワークの成果発表** 旅行業、宿泊業についての課題と展望をまとめる。 グループワークでテーマとなった課題についてのまとめを発表する。	グループワークの発表に向けて準備をしておく。	4時間
第8回	**特別授業 / 運輸におけるクルーズビジネス** 海洋運輸ビジネスに焦点をあて、特別講師を招いて、クルーズビジネスの概要、リアルな経営戦略を理解する。また、事前に提供された課題について講師と議論する。	事前に配布の資料を読み、クルーズビジネスについて理解を深めておく。　　いて理解しておく。	4時間
第9回	**航空ビジネス** 国際線、国内線における航空ビジネスを理解する。 グループワーク（航空会社についての課題提供）	事前に配布の資料を読み、航空ビジネスについて理解しておく。	4時間
第10回	**空港ビジネス** 空港の役割、運営、ビジネスモデルを理解する。 グループワーク（空港についての課題提供）	事前に配布の資料を読み、空港の役割を理解しておく。	4時間
第11回	**その他の運輸業（陸上輸送：鉄道、バス等）** 鉄道、バス等の観光ビジネスにおける役割を理解する。 グループワーク（輸送ビジネスについてのまとめ）	事前に配布の資料を読み、鉄道、バスの輸送ビジネスについて理解しておく。	4時間
第12回	**テーマパークと観光ビジネス** テーマパークのケーススタディーを通し、テーマパークのビジネスモデルを理解する。 グループワーク（テーマパークについての課題提供）	事前に配布の資料を読み、テーマパークについて理解しておく。	4時間

第13回	**後半の授業の振り返りとグループワークの成果発表** 輸送ビジネス、テーマパークについての課題と展望をまとめる。 後半のグループワークでテーマとなった課題についてのまとめを発表する。	グループワークの発表に向けて準備をしておく。	4時間
第14回	**観光ビジネスの将来ビジョン** 現在の観光ビジネスの抱える課題を理解し、将来を展望する。 授業全体の振り返りとまとめ。 期末レポートにおける課題を提供し、レポート作成時の注意点について指示をする。 その際、研究倫理のもと、著作権と個人情報についての説明もおこなう。	13回の授業の振り返りをし、観光ビジネスの未来像について自身の意見をまとめておく。	4時間

622

授業科目名	**フィールドリサーチ**				
担当教員名	吉田 忍				
学年・コース等	2回生	開講期間	前期	単位数	2
授業形態	演習				
実務経験のある教員による授業科目	該当する				
実務経験の概要	外資系航空会社で営業、販売企画、カスタマーケア部門など幅広い分野に従事。また、旅行会社の取締役として旅行商品の企画、販売、仕入れ全般を統括。（全14回）				

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

観光が地域振興に果たす役割は重要です。本講義は、地域振興における観光の役割や位置づけを学んだ後フィールドワークを実施し、それをレポートし、ツールによる発信をおこないます。今年度は、大阪市内フィールドワークを実施します。「事前調査」、「フィールドワーク（２コマ分）」、「発表」で、１回のフィールドリサーチが終わります。
大阪城、大阪天満宮・造幣局、そして中之島地区から船場にかけての地域を予定しています（計３回）。フィールドワークを通じて大阪の歴史的な観光資源を体験し、大阪市の魅力発信を行います。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP3.専門的知識・技能を実践で発揮する力	観光情報の発信力の育成	大阪市の観光資源を理解し発信できる
汎用的な力		
1. DP10.忠恕の心		幅広い情報ツールを応用し、人の立場にたって、必要な考えと行動ができる
2. DP5.計画・立案力		最終目標達成に向けて、段階的な計画を立てることができる
3. DP9.役割理解・連携行動		チームの中で自分の役割を理解し、チームで一つの目標に向かって協働できる

学外連携学修

有り(連携先：大阪観光ボランティア協会)

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)
・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)
・発表(スピーチ、プレゼンテーションなど)
・ディベート、討論
・見学、フィールドワーク

課題や取組に対する評価・振り返り

・実技・実習後、全体に向けてコメントします
・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則としえ毎回出席すること。規定以上の出席がなければほうきとみなし、成績評価を評価しない。10分以上の遅刻・早退は欠席とみなす。3回以上の遅刻で1回の欠席とみなす。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
授業への貢献度	10 %	： 授業内の発言や質問、ディスカッションへの積極性を評価します。
プレゼンテーション	60 %	： グループプレゼンテーション3回を独自のルーブリックに基づき評価します。
レポート	30 %	： グループプレゼンテーションした内容を個人でレポートにまとめます。独自のルーブリックに基づき評価します。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

北川央『大阪城（図説 日本の城と城下町①)』 創元社、2022年

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。予習として、テーマに関する資料を自ら調べておくこと。また、復習として配布物は必ず読んでおくこと。授業内はマナーを守り、積極的に授業に参加すること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜３限

場所： 研究室

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーションとフィールドワークの概要** 授業の進め方の説明。地域づくり、地域振興に果たす役割を事例を挙げて説明します。 フィールドワーク時のグループ分けをします。	大阪市の歴史を調べる	4時間
第2回	**観光資源としての大阪城とフィールドワークの準備** 大阪城の歴史、及び大阪城を観光資源とする大阪市のPR戦略を学びます。 フィールドノートを作成します。	大阪城の歴史を調べる	4時間
第3回	**フィールドワーク①「大阪城-1」** 大阪城のフィールドワークを行います。	フィールドワークで調査する点を整理する	4時間
第4回	**フィールドワーク①「大阪城-2」** フィールドワークをもとに報告書をまとめます。	報告書を完成させる	4時間
第5回	**フィールドワーク発表会①** 「大阪城」フィールドワーク報告書の発表会、ディスカッション	ディスカッションを踏まえて報告書を完成させる	4時間
第6回	**大阪市の歴史を知る。フィールドワークの準備** フィールドワークに備えて、大坂の陣、真田丸を事前調査を行います。 フィールドノートの作成を行います。	大坂の陣について調べる	4時間
第7回	**フィールドワーク②「大阪天満宮・造幣局-1」** 大阪天満宮・造幣局周辺をフィールドワークします。	資料をまとめる	4時間
第8回	**フィールドワーク②「大阪天満宮・造幣局-2」** フィールドワークをもとにディスカッションし、報告書をまとめます。	報告書を完成させる	4時間
第9回	**フィールドワーク発表会②** 「大阪天満宮・造幣局」フィールドワークレポートの発表会、ディスカッション	ディスカッションを踏まえて報告書を完成させる	4時間
第10回	**中之島、船場地域の歴史とフィールドワークの準備** 中之島、船場地域の歴史を学びます。フィールドワークの準備 フィールドノートの作成をします。	フィールドワークの事前資料の整理	4時間
第11回	**フィールドワーク③「中之島、船場-1」** 中之島、船場地域をフィールドワークします。	フィールドワークで調査する点を整理する	4時間
第12回	**フィールドワーク③「中之島、船場-2」** フィールドワークをもとにディスカッションし、報告書をまとめます。	報告書を完成させる	4時間
第13回	**フィールドワーク③発表会前半** 「中之島、船場」フィールドワークレポートの発表会。 お互いのプレゼンテーションに対して評価、ディスカッションを行います。	ディスカッションを踏まえて最終レポートを完成させる	4時間
第14回	**フィールドワーク③発表会後半と総括** 「中之島、船場」フィールドワークレポートの発表会。 お互いのプレゼンテーションに対して評価、ディスカッションを行います。 ３回のフィールドワークを踏まえて、大阪市の観光戦略に関して総括を行います。	ディスカッションを踏まえて最終レポートを完成させる	4時間

622

授業科目名	**欧米地域研究**				
担当教員名	麻畠 徳子				
学年・コース等	2回生	開講期間	後期	単位数	2
授業形態	講義				
実務経験のある教員による授業科目					
実務経験の概要					

開放科目の指示：「可・不可」

授業概要

近年、コンテンツ・ツーリズムという新しい観光形態に注目が集まっています。コンテンツ・ツーリズムとは、アニメや映画、小説などの物語コンテンツの舞台を訪れる観光のことを指し、有形・無形観光資源をもたない地域であっても、その地域が醸造する物語性を求めて観光客が訪れるという特異性があります。本授業では、こうしたコンテンツ・ツーリズムの宝庫であるイギリスを対象として、作家ゆかりの地や物語の舞台を訪ねる文学旅行が盛んなイギリス観光の具体例を取り上げながら、コンテンツ・ツーリズムを成立させる条件とその可能性を考察します。

養うべき力と到達目標

確かな専門性	具体的内容：	目標：
1. DP1.幅広い教養やスキル	コンテンツ・ツーリズムに関する知識	イギリスを対象としたコンテンツ・ツーリズムのあり方を知り、イギリスの歴史や芸術、文学などの幅広い文化への造詣を深めるとともに、これからのコンテンツ・ツーリズムの将来性を考察する力を身につける。
汎用的な力		
1. DP4.課題発見		授業内容を理解した上で、観光による地域活性化という課題において、コンテンツ・ツーリズムが果たす役割を考え、解決策を検討する力を身につける。

学外連携学修

無し

授業方法（アクティブラーニングを促す方法について）

・課題(演習、調査、レポート、ケースメソッドなど)

・問答法・コメントを求める

・振り返り(振り返りシート、シャトルシートなど)

・協同学習(ペアワーク、グループワークなど)

課題や取組に対する評価・振り返り

・提出物にコメント・評価をつけて返却します

・提出後の授業で、全体的な傾向についてコメントします

成績評価

注意事項等

原則として毎回出席すること。規定回数以上の出席がなければ
放棄とみなし、成績評価を「ー」(評価しない)とします。

成績評価の方法・評価の割合		評価の基準
毎回の小テスト	30 %	： 毎回（第５回、第９回、第１３回は除く）の授業のはじめに、それまでの講義内容についての理解度を測る、参照可の小テストを実施します。それらの平均値を評価の30%とします。
論述型の小レポート	30 %	： 参照不可の論述型の小レポート（第５回、第９回、第１３回の授業内に実施）について、講義内容の理解と考察の独自性をもとに採点します。３回分の点数の平均値を評価の30%とします。
授業貢献度	30 %	： 毎回の授業において、各自のノートテイキング内容を基に議論し考察を深め、他の学生と意見を共有する積極的な姿勢を独自のルーブリックで評価し、成績評価の30%とします。
期末レポート	10 %	： 第14回の講義のあと、講義内容の理解に基づいて講義で扱ったトピックを一つ取り上げ、それについての考察を課し、独自性が見られるかどうかを基準に採点します。期末レポートは評価の10%とします。

使用教科書

特に指定しない

参考文献等

石原孝哉、市川仁　編著『イギリス文学を旅する60章』（明石書店、2018）

履修上の注意・備考・メッセージ

本科目は２単位の科目であるため、平均すると毎回４時間の授業外学修が求められる。
「授業外学修課題」に取り組むことに加え、その回の授業の内容を丁寧に復習し、次回の授業に向けて予習をすること。

オフィスアワー・授業外での質問の方法

時間： 火曜1限

場所： 研究室（西館5階）

備考・注意事項： メールアドレス：asahata@osaka-seikei.ac.jp

授業計画		学修課題	授業外学修課題にかかる目安の時間
第1回	**オリエンテーション：コンテンツ・ツーリズムとは何か** ・授業の進め方、評価方法の確認をします。 ・コンテンツ・ツーリズムに関する研究背景を概観します。 ・参考図書等の紹介をします。	コンテンツ・ツーリズムの概要について、1000字程度でまとめられるように講義内容を整理しておきます。	4時間
第2回	**【序】イギリスと近代ツーリズムの起こり** ・イギリスという国と近代ツーリズムの起こりの関係を学びます。 ・トーマス・クックによる近代ツーリズム産業の創出について学びます。	アーサー王伝説について、その内容や時代背景などを下調べしておきます。 第２回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第3回	**古代・中世①：アーサー王伝説とコーンウォール地方** ・イギリス建国の歴史上の人物であったアーサー王とその伝説について学びます。 ・アーサー王伝説とそのゆかりの地コーンウォール地方の観光地を調べます。	アーサー王伝説のサブカルチャー化について、時代背景などを下調べしておきます。第３回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第4回	**古代・中世②：アーサー王伝説とサブカルチャー化現象** ・アーサー王伝説の日本における受容の歴史的経緯を学びます。 ・アーサー王伝説自体がサブカルチャーとしてゲームやアニメのコンテンツに結びついていったことを学びます。	第１～４回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。 第5回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第5回	**【小括①】第１～４回の振り返り、コンテンツ・ツーリズムの前提条件** ・第１～４回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 ・コンテンツ・ツーリズムを成立させるための前提条件を考察します。	コンテンツ・ツーリズムの前提条件について、考察内容を300字程度でまとめておきます。	4時間
第6回	**ルネサンス期①：シェイクスピアとストラットフォード・アポン・エイヴォン** ・イギリスを代表する文人シェイクスピアの作品について学びます。 ・シェイクスピアゆかりの地ストラットフォード・アポン・エイヴォンの観光地について調べます。	シェイクスピアの作品について、内容や時代背景などを下調べしておきます。 第６回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第7回	**ルネサンス期②：映画になったシェイクスピア『Shakespeare in Love』** ・映画になったシェイクスピアの作品を鑑賞します。 ・シェイクスピアにまつわる伝記的背景が映画にどう反映されているかを調べます。	ロマン派について、代表的な作品や時代背景などを下調べしておきます。第７回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第8回	**ロマン派：ロマン派詩人ワーズワスと湖水地方** ・ロマン派という文学的時流とそれが生まれた背景を学びます。 ・ロマン派の想像力の源とされた湖水地方の自然と、そこへ訪れるツーリズムが起こった時代的経緯を学びます。	第５～8回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第9回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第9回	**【小括②】第６～８回の振り返り、コンテンツ・ツーリズムの経済効果**	『嵐が丘』について、内容や時代背景などを下調べしておきます。 第9回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間

	・第６～８回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 ・コンテンツ・ツーリズムがもたらす経済効果について考察します。		
第10回	**ヴィクトリア朝①：エミリ・ブロンテ『嵐が丘』とハワース** ・世界10大小説に挙げられる『嵐が丘』の作品について学びます。 ・ハワースという土地と作品内容との相乗効果について考察します。	シャーロックホームズシリーズについて、内容や時代背景などを下調べしておきます。 第10回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第11回	**ヴィクトリア朝②：『シャーロックホームズ』シリーズとロンドン** ・世界的に知られた『シャーロックホームズ』シリーズの作品について学びます。 ・作品に描きこまれたロンドンとそれらの記述が持つコンテンツ・ツーリズムの可能性を考察します。	ピーターラビットシリーズについて、作品や時代背景などを下調べしておきます。 第11回の講義内容について、３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。	4時間
第12回	**ヴィクトリア朝③：『ピーターラビット』シリーズとナショナルトラスト運動** ・世界的に知られた『ピーターラビット』シリーズを描いたビアトリクス・ポターの人生について学びます。 ・作家が観光資源としての湖水地方の景観を守るためにおこした運動とその意義について考察します。	第10～12回の講義内容について、２０００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。第１3回の授業内で実施する論述小テストのために復習しておきます。	4時間
第13回	**【小括③】第１０～１２回の振り返り、コンテンツ・ツーリズムの可能性** ・第１０～１２回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを確認する小テストを実施します。 ・授業内容を踏まえて、コンテンツ・ツーリズムの可能性を議論します。	第１～１3回の講義内容について、それぞれ３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。最終の論述型レポートのために復習しておきます。	4時間
第14回	**【総括】これまでのまとめ、観光を生かした地域活性化の課題** ・第１～１３回までの内容を振り返り、学習内容が理解できているか、またどのような意見をもったかを話し合います。 ・最終課題（期末レポート）に取り組むときの要点を学びます。	第１～１４回の講義内容について、それぞれ３００字程度でまとめられるようにノートに整理しておきます。最終の論述型レポートのために復習しておきます。	4時間